

第9回 まちづくり常任委員会会議録

令和5年8月10日(木)
委員会議室

○会議日程

- 1 開会宣告(10時20分)
- 2 調査事項
(1) 教育委員会所管
① 幌延町小中一貫校基本構想策定等支援業務について
- 3 その他
- 4 閉会宣告(11時10分)

○出席委員(8名)

委員長	4番	高橋秀之
副委員長	1番	高橋秀明
委員	2番	佐藤忠志
委員	3番	深澤博幸
委員	5番	植村敦
委員	6番	無量谷隆
委員	7番	齋賀弘孝
委員	8番	西澤裕之

○出席説明員

町長	野々村仁
副町長	岩川実樹
教育長	青木順一
教育次長	伊藤一男

○議会事務局出席者

事務局長	岡田英樹
主任	横山薫

高橋委員長

第9回まちづくり常任委員会を開催させていただきます。

調査事項としては、教育委員会所管、幌延町小中一貫校基本構想策定等支援業務について。

この間、8月8日にも第8回まちづくり常任委員会を開催させていただきまして、質疑応答いただきまして、ありがとうございました。

今日ここでもう1回開かせていただくということは、委員の中からまだ質問足りてないという意見もありましたので、今日、急遽すみませんが開催させていただくことになりましたので、よろしく願いいたします。

それでは、質疑ある人、手を挙げて、お願いいたします。

齋賀委員

今、委員長言ったとおり、前の会議で、まちづくり常任委員会に会議録の、令和4年度のこのロードマップに沿っての、この会議録をお願いしたところなんですけど、昨日の夜私の方にファクスが届いたんですけども、会議終わった時点で次長の方から、顛末書ですか会議録ですかと問われたので、会議録ですというふうに改めてお願いしたところだったんですけども、会議録はなくて顛末書だったんですけども、教育委員会には会議録は無いということなんですか。

無いのに顛末書ですか、会議録ですかということを私に聞いたんですか。

それをちょっと確認したいと思います。

伊藤教育次長

会議録っておっしゃったので、顛末書ですか会議録ですかということを確認させていただいたんですけども、会議録イコールというか、顛末書が会議録というような認識もありましたので、そういう記録を取ったものという意味で、どちらですかという一応確認はさせてもらいました。

齋賀委員

分かりました。

もう、私の思ってる会議録は、顛末書だと結果だけですよね、こうなりましたという。会議録はその過程が分かる、今回の小中一貫についてその過程がどういうふうな流れで、会議の話の中の流れでどういうふうになったかというのは分かると思うんで、改めて会議録の提示をお願いしたいと思います。

伊藤教育次長

校長会、教頭会については会議録というんじゃなくて顛末書を記録として残してあるというような形ですので、教育委員会とかについては会議録という形で残してますけれども、校長会、教頭会については顛末書という形が会議の内容が分かるものという形になっております。よろしく願いします。

齋賀委員

分からないんですよ。

会議録見ながら顛末書作るんじゃないかと思うんですけど、会議録を見ながら顛末書を

作らないで、いきなり顛末書なんですか。

伊藤教育次長

校長会、教頭会につきましては自分たちでメモをして、そのメモに基づいて必要なところを顛末として残してあるというようなことで、これまでもやってきております。以上です。

齋賀委員

分かりました。

もう会議録出してくださいと言っても、会議録はできないと。

委員会では、顛末書が会議録なんだという、考えだということなんですね。

教育委員会を出してる会議録ありますよね。あれは会議録でちゃんと誰が何しゃべったかというのを書いてあるんですけど、あれの会議録とこの顛末書、校長会、教頭会、CS、この顛末の違いは何なんですか。

伊藤教育次長

教育委員会議については公表ということで録音もしてますしきちんと会議録を取っております。

校長会、教頭会については非公開というか秘密会という個人情報もたくさんあるものですから公開してませんので、その部分で、これまでも録音とかそういうものはしないで、メモ等によって記録を残したものを顛末書という形で取っております。以上です。

齋賀委員

分かりました。

分かりましたというか、ちょっとよく分からないんですけども、教育委員会の考え方がそういう考え方で顛末書が会議録だと。また、録音してる媒体も何もないよということは分かりました。

もう一つお聞きしたかったんですけど、今年の12月に一般質問によって、令和9年度開校を目指して小中一貫校にしたいという教育長のお話でした。

それは前にも言ったんですけども、この小中一貫校を目指すというのは、教育長さんが就任されてまだ何回もたっていないわけで、いきなり令和9年度開校を目指すというお話が出ました。

そのときにいろいろ勉強して9年度開校を目指して基本構想の検討もしますよと、そしてロードマップも作成しますよ、検討委員会を設置しますよ、先進校の視察計画と取り組んで進めると。

その都度議会でもその進捗状況について周知したいという考えをお話しされたんですけども、今お諮りするのには基本構想を1,300万円で作りたいということで、このできてきた基本構想を見て一貫校、幌延町でやりましょうかどうかという判断をしてくださいということで、町民の皆さん関係者皆さんにお諮りするんですか。それとももう一貫校は総合計画に載っているんだから、もうやるんだよと。それが前提で、基本構想をするということによろしいんですか。

青木教育長

今、委員の御指摘のとおり後半の方、一貫校造るということで、それを基にして基本構

想、基本計画を立てていくということで今進めているところです。

齋賀委員

ですからその基本構想が出てきた時点でやっていきましょう、これはやはり今までの学校どおりでいいよねという判断をするんですか。

もう今までの学校じゃないよと、一貫校でやっていくんだと、要は決まってるということでいいんですか。

青木教育長

そのとおりです。決まっているということで、今進めているところです。

齋賀委員

分かりました。

12月のときに検討委員会設置するというお話されたんですけども、検討委員会はもう既に設置されて、機能して動いているんですか。

青木教育長

検討委員会の方ですけども、今、小中一貫教育推進部会ということで検討を、今、中学校区内のコミュニティースクールのメンバーがそのまま部会メンバーになっていって、申し訳ありません、12月のときは検討委員会と言ってましたけれども、今は部会ということで位置づけて、その中で、いろいろ小中一貫についてお話をしているところです。

内容はこの前説明したとおり、どこに建てるかとか、後はどのような部屋にしたらいいかとか、教室数とか、そういうものを、細かいことをちょっとワーキンググループ的に、今、検討している最中です。以上です。

齋賀委員

先ほど言った教育委員ですね、教育委員会さんの中では令和3年度も、令和4年度もずっと、この5年4月まで教育委員会あったけども、教育委員会の会議録の中で協議議案として1回も小中一貫校の話をなさってないんですけども、教育委員会ではそのことを一言も触れないで、それは雑談の中であるようですよ、一貫校というのは、ただ正式な協議議案として載せないで、こういうふうに1,300万円の構想を委託するというのを、どう思われますか。

青木教育長

令和4年10月から就任しまして、その間、まず教育委員会の中では、最初私の挨拶というか進捗状況の報告する場面がありますので、その場面で教育委員さんに進捗状況を、今の小中一貫教育、この辺まで進んでますということでお話をしたりとか、直近では1月の教育委員会議の際に、2月にありました町政懇談会の内容の説明、それを説明する旨について1月でしたから2月に町政懇談会ありますので、1月の教育委員会で、その挨拶の中で、町政懇談会について来月説明しますという内容を説明したり、大体私からの説明の中で協議事項として小中一貫について協議するという場面ではなくて、報告事項として教育委員さんに周知を図って、意見があれば意見をいただくということで進めております。

齋賀委員

どうして大事なことだったのに、これ1回も、令和3年も4年も5年も協議案、議案として載せないで、進捗状況をお話しするだけだったのかなと思うんですよ。

その進捗状況をお知らせするのであれば、最初の最初に一貫校について委員の皆さんにお話しして、こういう状況で進みたいんだと。その都度進捗状況を委員の皆さんにお話ししますねということがあると思うんですけども、令和3年度もそんな、どこにもそういう協議案件としては、議案としては題目が無い。無いのに進捗状況をお知らせするというのは適切ではないんじゃないと私は思うんですけども、どうですか。

伊藤教育次長

こちらの方につきましては、教育委員会の方でも情報共有しながら、総合教育会議というものが町長部局と教育委員会部局でございまして、その中で小中一貫のことについては、かねてから協議をしながら進めてきているところです。

教育委員会の方では、それらを基に今の進捗状況というようなものを共有しながら、それから教育委員さんの意見をいただきながら、今後、こういうふうに進めていったらいいんじゃないかというような意見をいただきながら、進めてきているという形で、教育委員さん方も全く知らない中でやっているということではなくて、総合教育会議の中で、案件として小中一貫教育の関係については、これまでも協議してきているということでございます。よろしくお願いします。

齋賀委員

小中一貫という、協議、議案ではないけれども、ほかのところ、総合何とかで一貫校のお話は委員の皆さんにしていると。そしてそれにいろいろ意見をいただいているよと。

だから協議議案として、持たなくてもいいという教育委員会のお考えなんですね。

伊藤教育次長

持たなくてもいいとかということではなくて、今後、今回の委託の関係につきましても、前回の教育委員会会議で、このようなことでということで中身を説明させていただいて、承諾を得ているというようなところで進めておりますので、今後また今回、8月補正ということで上げさせていただいてますけれども、今後また補正とか重要な案件等につきましても教育委員会会議の中で図っていければと考えております。以上です。

齋賀委員

分かりました。

委託しますよね。委託した後にこういう基本構想になりましたよということで町民の皆さん関係機関に何らかの形で報告すると思うんですけども、ロードマップには1回も、こういう大きなことをやるに当たってパブリックコメントをする場が設けられてないんですけども、仮にロードマップには無いけどもパブリックコメントはするというお考えはあるのでしょうか。

青木教育長

イメージ構造図というか学校の概要ができたときに、町民の皆様にお示しして、そのあと、ちょっと期間はどのぐらいになるか分からないですけども、パブリックコメントということで御意見を募りたいと考えております。以上です。

齋賀委員

最後になるんですけど、教育委員会は顛末書が会議録だというふうにおっしゃいますけど、やはり、こういう大きなプロジェクトを今進めていくわけですから、そしてまた人事

でいつ異動して、また新しく、どういうふうになるか分からない人が、誰かが携わっていく。やはりこれ、会議録というのは大事だと思うので、顛末じゃなくて、やはり会議録を残しておくべきだということを私はお願いして、私の質問を終わります。

青木教育長

御意見ありがとうございます。

前向きに検討していきたいと考えております。

ただし個人情報とか生活保護、準要保護、後は生徒指導、問題行動等、そういう子供あるいは保護者に関わる問題もありますので、その辺は会議録には残しておきますけども、公開の不公開内容になってしまいますので、その辺は御理解いただければと思います。

今回のように、申し訳ありません黒塗りになってますけども、そのような形でもし開示請求があれば、また再考したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

高橋委員長

ほかにありませんか。

深澤委員

大体のことは齋賀委員が質問してたのと多少重複するところもあるんですけど、今回のこの委員会の開催というのは、我々議員として情報が何も入って来てなかった。

というのは、先ほど齋賀委員も言っていました、発端は同僚議員の植村議員が12月の一般質問の際に、この小中一貫というのが、初めて聞いたよという議員さんがほとんどだったんですよ。

そのときの答弁の中に、ロードマップの作成、検討委員会の設置、先進地の視察計画等の取組など、今後議会等にその進捗状況について周知していきたいと、こういうふうに答弁してるんですよ。にもかかわらず、今回、齋賀委員が取り寄せた顛末書が我々にも見せてくれましたけれども、もう2回ほど、検討委員会ではないんですけど、小中学校運営協議会というのが開催されて、その時点でこの内容見たら数字まで上がってきてる。20億という金額が提示されてるんですよ。

この資料を見て我々議員も初めて知ったんですよ。

そこで、今回の、この後の設計の段階に入ると思うんですけど、この20億を超える予算でやるのか、それ以下で抑えるのか、その点どうですか。

伊藤教育次長

その20億というのは、改修するとすれば20億掛かりますということなんですよ。

試算がもう、それは平成25年の保全計画の段階で出た数字が20億ぐらい掛かるよということだったので、補修をすればそれぐらい掛かるよというお知らせをただけで、今回校舎を建てるのに20億掛かるとかという話ではありません。

深澤委員

この数字を見て、一般の人方がね、今委員のメンバー内で比較対照する数字でないのこれ。

要するに20億掛かるから新しい校舎を建てましょうということで誘導してるんじゃないんですか。違いますか。

伊藤教育次長

誘導してるとかじゃなくて。

(深澤委員「してるように見えるんだって」)

そうじゃないですよ。

説明もきちんとしてますけど、今後、古い校舎を40年延ばすとすればそれぐらい掛かるので、新しい校舎を考えなくてははいけませんという説明をしているので、到底誘導してるといふことにはならないと思います。

深澤委員

ついちょっと声張り上げてしまいましたけど、議員として町民に何て説明して、この小中一貫に関して、どう説明して承諾を得るかという、議員の仕事もあるんですよ。

ですから、このとおり議会に報告して、逐次報告しますということ、これは真摯に受け止めるつもりでいるんですよ。

それが、何か議会軽視のように事後報告されて、そうですかという納得はどうもいかないので、今日の委員会を開催するように申し合わせしたんですよ。

それで、視察にも行かれてますよね。検討委員会なのか、小中学校運営協議会ですか。

これにも議会にも何も打診もなく、今回の補正予算のときだけ議会招集させて、議論する場所も何もない。

先般、8日に、この委員会終わった後に、議員全員控室で、このことについて、皆さん、ざくばらんな話し合いしたんですよ。

小中一貫、やることに関しては、皆さんどういふ意見で、全員賛成という話ではないんだけど、一部ね、あれもあるんだけど、やる方向には問題ないという意見で集約してるんですよ。

ただそれまで行き着く過程で、齋賀君も何回もその質問に関して言ってるんですけど、どうも我々の立場として納得いかない部分があるんですよ。

それで今回の9月の視察、それは同行してもいいよみたいな話なんだけど、その前段で視察に要請しなかったその旅費というのはどこから出たんですか。

伊藤教育次長

2月の旅費につきましては予算計上しておりましたので、その中でやりくりしております。

今年の美深につきましても予算計上しております。

すみません、正直言いますと、議員さん方も一緒にというふうなお声掛けをどのタイミングでしたらいいのかとか、その辺が、すみません、私の方で理解してなかったというか、どういうふうに進めていっていいかというのを、手探りの中でやっている中で、手落ちだったかなっていうことで、今回、事務局長の方から議員さんも一緒にどうですかというお声掛けをいただいたので、この秋の視察をぜひ一緒に行ければなということでした。

今、実情はそういうことです。私の方の手落ちだったということはあるかなと思います。そういう、相談事をどんどんしていくべきだったのかなということ、思っております。

ただ、中間報告、経過報告等につきましては教育長の方から行政報告等で、進捗状況等を報告させていただいておりますので、常任委員会等でも更に詳しい報告をすればよか

ったかなというところはありませんけれども、なかなかそのタイミングというか、4年度もそうですけれども、いろいろなことが重なりまして、なかなかそういう機会が持てなかったということで、私自身ちょっと反省はしてるところです。以上です。

深澤委員

謝罪してこと済む話でもないんですけど、そろそろ最後の方になるんですけど、先ほどの質問漏れで、最大どのぐらいまでの予算規模でやるのかというのは、想定してるのか、してないのか。

伊藤教育次長

予算規模等につきましては、今、視察している段階ですけれども、当別町については60億程度掛かっているようなこととか、後いろいろなほかの施設を比較すると相当掛かるかなという気持ちでおりますけれども、具体的にどれぐらいというところについては、そこまでは全然詰めているということではございません。以上です。

深澤委員

今回の委託する中では多分その数字は出てこないんだろうと思うけど、その中でも国からの補助率もどのぐらい想定してるのか、それも分からないんですか。

伊藤教育次長

補助率というか基本は2分の1なんですけれども、状況によっては3分の1に減らされる場合もあるというようなことです。それと、後、状況によっては5.5付く場合もあります。

建てる中身によって採択要件がいろいろありますので、例えば以前も説明させていただいておりますユニバーサルデザインですとかエレベーター付けるだとか、環境に配慮した設備を付けるだとか防災機能を付けるだとか、後、ほかの公共施設を複合化するだとかというような細かな部分で補助率が上がっていくというようなこともありますので、実際に建てるに当たっては、やはりその、できるだけ補助率を上げていけるような方法で考えていければいいのかなというふうには考えております。以上です。

深澤委員

今回、この計画、今日の補正予算の中でも委託先はプロポーザル方式を執るって書かれてるんですけど、私もそのプロポーザルというのはよく知らなかったんですけど、よく調べてみたら企画提案という、一部似たような方式があるんですけど、これを採用するには相当業者選びというのは大変みたい、要するに実績、経験が無ければ難しいよというらしいんですよ。それで、まだ発注者側として、本当に選択肢として、間違いない選択できるのか、できないのか、その辺いかがですか。

伊藤教育次長

プロポーザルにつきましても、文科の方で補助事業やるのであればプロポーザルをやりなさいというようなことで去年あたりから言われてます。

そういうことも審査とかそういう面もありますので、審査委員とかについては、これからコンサルさんといろいろと打合せをしますけれども、そのための費用もコンサルさんの方と相談しながらプロポーザルの実施用の資料作成ですとか、審査委員の方とかの選定等につきましても相談しながら進めていきたいと思っておりますが、専門知識のある方を審査委

員として、業者さんを選定していけるような形を執ればいいのかというふうに考えております。

深澤委員

今回の顛末書に、まとめで来年度、要するに平成5年度、令和9年度の校舎建築や小中一貫校としてスタートするための様々な整備を、学校運営協議会の委員の皆様の御意見を伺いながら進めていくと。そして教育活動の中においても具体的な教育が生まれるような役割を發揮していきたい。ここにも議員という名目何もないんですよね。

もう議員軽視なんですよ、それ。いかがですか。

青木教育長

今お話あったとおり、私ども教育委員会としては議員軽視、議会軽視、住民軽視、こういうものは全く考えておりません。

ただ言葉として顛末書の中に議員という言葉が出てこない、その辺はいつも議会の意識してこの検討協議会の中でもお話をさせていただいております。

この前の2回の検討協議の中にも、議会に報告しますということで会議録があればそれが残っているんですが、顛末書の中にはちょっと残ってませんが、検討委員の委員さん、部会の中の部会委員さんの中からも、議会できちんと報告してねということでお話があったところですので、顛末書には出てきてませんが、そういう話、議会中心とどうか議員さんの話も出ながら、私どもとしては議会中心として、議会同意を得ることを優先してお話を進めているところがございますので、御理解いただきたいなと思います。

深澤委員

教育長、それ詭弁だって。

ここにも書いてますよ。

もう1枚のペーパーにはですね、方向性を決めるに当たっては、校長会や教頭会、PTA、学校運営協議会等の意見を十分聴取して決めていくとする。

ここにも議員入ってないですよ、これ。

どこに議員説明するのさ、どこの場所で。

青木教育長

申し訳ありません。そういう言葉として現れてきてませんが、本当に検討協議会、運営協議会の中では、先ほど申しましたとおり、議会できちんと報告していきますということでお話をしていることを御理解していただくのもちょっと難しいかなと思うんですが、それは私の方できちんとお話をしているところがございますので、御理解いただければと思っております。

深澤委員

しつこいようですが、先ほど教育長が検討部会に名称変わったと、ここにも議員さん入れないんですかこれ、今後とも。入れて意見を聞くという場は設けないということによるんですか。

それと、先ほど個人情報のお話で黒塗りの部分があるからという話もありましたが、この会議って非公開でやってるのか。

黒塗りあるしよ。みんな黒塗りにしてるしよ、名前の欄に。

小学校の校長って校長の名前消してる部分たってすぐ分かるって。なんぼ消したって。
青木教育長

先ほど申しましたとおり、校長会、教頭会の方では、顛末書というか、そちらの方は黒塗りになってるところは、先ほど申しましたとおり行政機関情報公開法というのがあります、その中で個人情報、あるいは公にすることによってちょっとその家族あるいは保護者、子供に影響があること。

率直な意見も結構出ますので、それに対して、風評被害じゃないですけど、何かこんなこと言ったやつがいるなという、そういうものがあつた意見とか、そういうのは削除するというか、そして公表するということになっておりますので、すみません、申し訳ないですけれども、黒くなってしまっております。

佐藤委員

両議員からいろいろ質問あって、あれなんですけど、いずれにしても大型なプロジェクト、とてつもない、やはり町の今の財政から見たら、60億、何十億なんてなったら町の予算どころの話でないようなことやっていくわけだから、一つ聞きたいのは、いろいろと小中一貫校も実際いっぱいあるわけだけど、そういう中ではこういうメンバーだけで、やはりこういう協議会では、議員も入らないで、町民も入らないで、こういう形なんですか、ほとんど。

議会議員なんて入ってるそこではないもんなんですか。

伊藤教育次長

議員さんが委員に入っているというところは、ほかにもあります。

佐藤委員

今言ったように、なかなかこの情報共有がなっていないというのか、皆さんのところの腹のところにあるのは、何だと、よく分からんうちにももの進んでるのかと、みたいなどころもあるなと思って、自分もそう思っておって、昨日も、3日の日もそうですが、場所は小学校に決まったとか、町民の中でも場所どこなんだとよく聞かれるんだけど、自分もまだはっきりしてない中で、まだ分からないということで、ただやはりそこら辺とを、もう少し今深澤議員言ったように、早めにそういう場を設けてもらうとか、忙しいのは分かるんだけど、それとも議員さんも入れてやっていくのか、大きなプロジェクトになっていくもんだから、議員さんの代表でも入れていくのもいいのか、いろんなものも、もう時間ないんだろうけど、もう結論の方に、令和9年の4月に開校するというのもうなってるわけだから。

ただ、これから基本構想をまとめて出てきて、それがまだ、ああでもない、こうでもないったら引っ込めてまたやり直すだとかってことも結構出てくると。

そうなると、また時間が食ってしまう、後ろに間に合わなくなってくる可能性が出てくるんじゃないかなと思って、そこら辺が皆さん心配して、もうちょっと、やはりこの情報共有して、議員の意見をいただきながらやっていけば、スムーズに行くか行かないかは別として、そこら辺もちょっとあるのかなと思ってるわけですが。

なるほど、議員も入ってるところもあるんだ。分かりました。

青木教育長

貴重な意見というか本当にありがとうございます。

教育委員会と議会との関係ですけれども、住民自治の観点からすごく重要な点かなと思ってます。

私たちの答弁とか、後、教育行政報告、これが大きな役割を果たしてるんじゃないかなと。

教育委員会としては議会を通じて、住民に対する説明責任、これを積極的に果たしていくことが望まれると認識しております。

これまでの小中一貫教育、私、10月1日に着任してから、いろいろ進めていって、申し訳ありません、委員さん御指摘のとおり前後になってしまったりとか事後承諾になってしまったりとか、本当に御迷惑をおかけしたり心配かけたりしたことがあったかなと。

小中一貫教育については所信表明のときに、小中一貫教育を進めてまいりますという話をまず11月にさせていただきました。

その後、何とか早く進めなきゃならないということで教育委員会、あるいはコミュニティースクール、後、町政懇談会とか、後は定例議会、本当に12月の植村議員の定例議会の中でお話をいただいて、答弁の中で、今後、教育行政報告の中できちんと、どんなことがあったか、報告させていただきますということで答弁させていただいたところでございました。

経緯についても、これから、また定例議会ありますので、校長会、教頭会、顛末しかないんですけども、そんなこと話しましたということで、更にちょっと詳しく、教育行政報告の中で、時間ちょっと長くなりますけども、説明させていただければと考えております。

先ほどありましたとおり、ちょっと報告が前後してしまったり、事後承諾になってしまったりと、議員の皆様には議会軽視じゃないか、軽視じゃないかということで、不愉快な思いをさせてしまったかなと思います。

この場を借りて謝罪したいと思います。

今後ですけれども、原則として時期を見ながら、チャンスを捉えながら、議会同意を得ることを優先して進めてまいりたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

無量谷委員

この小中一貫校、声上がったのが、去年のうち、そういう中で、あれですね、議会の説明、今皆さん言っているとおり、説明が不十分じゃないかなっていう感じはしてます。

そういう中で、やはり議会としても、町民に聞かれても何ひとつ答えられないというのが今の現状でないかなという感じがします。

そういう中で、一切、蚊帳の外というか、そういうような形で議会になってるんでないかなという感じはします。

そういう中で教育長は、今後、教育方針なり何なりの意見は述べますと言いますが、やはり、そのとき議会が質問することはできないんですよ。

ですから、ある程度、こういうようなまちづくり委員会なり何なりの時間を持って、議会等答弁して、議論する立場という会にしてほしいなというのが議会の気持ちでないかな

という感じがするんですよ。

ただ単純に意見だけ述べられて、議員さん、声出せない状況の中で発言されても、ちょっと納得いかないなという部分があります。

だから、できればそれはそれでとしても、やはり、このような議員との懇談会、あるいはまちづくりという形で、随時進めるなり、あれば議員も納得いくのかなという感じがします。

そういう中で、やはりこの町長、副町長に聞きたいんですけど、今までのプロジェクトとしても、やはりバイオマス、それに町の拠点というな形で進めてきたんですけども、何かだかって言って、何かどっかに、雲の外になって消えてしまったような感じなんですけど、そういう大型なプロジェクトありながら、更にこれをやるとなれば、本当にまだまだ議員の説明なり議論する余地があるんでないかなという感じはしていますので、今後とも緻密に、議会と議論していただきたいなという感じです。以上です。

青木教育長

貴重な意見ありがとうございます。

12月定例会で植村議員から報告ということでお話があって、教育行政報告だけじゃ足りないなと、今、考えておりますので、まちづくり常任委員会、月にありますので、その中で、必ず今の、小中一貫の進捗状況について委員の皆様にも周知というか、お知らせする機会を必ず設けたいなと。

何もない場合も来たいと思いますので、今月はちょっと動きありませんでしたとか、そういうところで、やはり対話を通して理解を深めていかなきゃならないなと思いますので、顔を出したいと思いますので、よろしくお願ひしたいなと。

それと、部会、検討協議会、それを毎月これから開きたいと思いますので、議員の皆様にも御案内、ちょっと時間遅いんですよ。7時からとか生涯センターであるんですけども、御案内申し上げますので、ぜひオブザーバーとして参加していただければ、どんな会議、どんな話合してるのかということも分かるかなと思いますので、ぜひお時間あれば見に来ていただきたいなと思います。

すいません、長くなりました。よろしくお願ひします。

深澤委員

最後に町長にお聞きしたいんですよ。

この小中一貫って、町長の選挙公約でしたよね。

この委員会、今日で3回目なんだけど、冒頭の挨拶も何もなしで町長、どういうスタイルを執るんですか。

その熱意とか、決意とかでよく見えないんですよ。いかがですか町長。

野々村町長

冒頭の挨拶もなしでというおしかりを今いただいたところでもありますけども、全体像がどういう方向で行くのかとか、全体像がどのような形になるかということ自体が、やはり見えてきた方がいいだろうということは、私自身は考えてございました。

何せ、何も分からない。先ほども、いろんな金額の話もありましたけど、全体像がどのサイズ、どういう形というのが、模索状態でずっと今まで来たんだと思います。

ようやく小中一貫校として、保護者の方々からの同意をいただいて、小中一貫校として進めていくんだという方向性が見えてきたということだと私自身は考えてございました。

それぞれ、そういう仕様が固まってきたときには、きちんと、こういう形で進めたいということをお話していければやはりちょうどよかったんですけども、今、その、発展途上のうちだったということ自体が私自身も、何も語らずこうやってきたということでもあります。

ただ、今、深澤さんが言われたとおり、私の施策の中の、小中一貫校の施策の一つでもありましたから、やはり冒頭、きちんと皆様方に御挨拶をしながら、この審議を進めていくこと自体をすべきことだったなと今深く反省してはいますが、ちょっと形的にも、どういう形で流れるかというのは私自身も、今の流れとしては分からなかったというのが、やはり難しかったところでもございます。

今、ようやくここに、この、こういう。

(深澤委員「我々も難しい」)

そこで、今こういう今回補正予算の形を、見える形にならなければやはり審議が進まないんじゃないかということからも含めて、ここに今、委託をして、プロポーザルでどういう学校づくり、どういう学校のスタイル、どういう備えを付けた学校ということが見えてくる、そうすると、どのぐらいの大きさのもの、どういうサイズのものというのが見えてくるのかなという気が、私どもはしてたところでもありますので、ひとまず、お話ができなかったこと自体は大変失礼をしたところでもございます。

私の気持ちとしてはやはりこの小中一貫校、早く実現をして今までそれぞれ、いろんな小さな学校の不足な部分も補充ができるような学校施設になること自体が目標でもありますので、今後とも皆さんと御相談をしながら、この小中一貫校の校舎の作成に当たってはスピード感を持ちながら進めていければ幸い、うれしいなというふうには思案しておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

高橋委員長

ありがとうございました。

佐藤委員

町長今おっしゃったように、我々心配してるのは、やはり教育委員会さんばかり、今、怒られておられて大変だけど、大変な思いをしてるんですが、町長の決意として、やはり公約で町長も一貫校として上げたわけだから、そこら辺のところは、やはり、どこかで皆さん総力を挙げて、これは、やはり大型のプロジェクトになっていくわけだから、皆さんそこら辺がちょっと心配して、何か言葉が足りないんじゃないかなと思って、やはり議員の皆さん、町民の皆さん、総力を挙げて、やはり、このプロジェクトを成功させなきゃならんだろうし、とてつもないお金が掛かるわけだし、国の補助もあるだろうけど、そこら辺ちょっと情報共有、コミュニケーションもろもろが足りないんじゃないかなと思って皆さんどうも腹の中で（聴取不能）思って、一つ。

野々村町長

反論ではございませんけども大変申し訳なかった、舌足らずで申し訳なかったとは思っております。

ただ、私自身がこういうふうにやりますという、固まり、裾野が、姿が見えてれば幾らでもしゃべられるのに、私自身分からない、教育委員会もまだこれから、今相談をしてる最中だということに、私が看板持って、これだ、これだという話には、やはり、なかなかできなかつたというところは現実です。

それが、先ほどもあったけども、改修も含めても、この小中一貫校がどういう形で、新築方向も含めて、今それぞれ協議をされてきたんだと思ってますから、そこには新築で、こういう形でいきましょうという方向性が見えた、固まったというところだけは、ようやく見えてきたんだと私自身思ってますから、そうすると今度は青写真を、やはり、こういうスタイルになるんじゃないかとかというのは、やはり、たたき台として必要なのかなということで、私自身としては口を閉じてたというところでもありますけれども、今後、私の政策でもありますので、今後、それぞれ口出しをしながらでも進めていければと思ってますけど、そうしたらどうするのよとか、どの大きさよとかと私に言われても今度、答えようないですから私。

(佐藤委員「分かりました」)

高橋委員長

以上をもちまして、第9回まちづくり常任委員会を閉会します。

どうもありがとうございました。

よろしく願いいたします。

(11時10分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 高橋秀之

以上、記録する。

事務局長 岡田英樹